

実施プラントの選定理由

当社は、何よりも安全性の確保を最優先に、慎重に検討しました。

玄海1, 2号機
(2ループ)
燃料121体/基

玄海3, 4号機
(4ループ)
燃料193体/基

川内1, 2号機
(3ループ)
燃料157体/基

理由1 『安全に実施できる』

玄海及び川内原子力発電所の、どのプラントでもプルサーマルを安全に実施可能。

- ・国により、MOX燃料を全炉心の1/3程度*まで装荷できることが確認されている。(指針)

*現状の運用計画は全炉心の1/4程度(<1/3)

(なお、安全性については、今後、国の厳格な安全審査を受けます。)

実施プラントの選定理由

玄海 1, 2号機
(2ループ)
燃料 121体 / 基

玄海 3, 4号機
(4ループ)
燃料 193体 / 基

川内 1, 2号機
(3ループ)
燃料 157体 / 基

理由2 『1基のプラントで、より多くの燃料を装荷できる』

当社では、1基のプラントでプルサーマルを実施する計画としており、玄海3, 4号機が、1基でより多くのプルトニウム(MOX燃料)を利用でき、エネルギーの長期安定確保及び核不拡散の観点から望ましい。

・MOX燃料の装荷量(1/4の場合)

玄海 1, 2号機
約28体

玄海 3, 4号機
約48体

>

川内 1, 2号機
約40体

使用済燃料の再処理実績(ウラン重量) [2004年3月末 現在]
玄海: 約390トン , 川内: 約70トン

実施プラントの選定理由

玄海 1 , 2 号機
(2 ループ)
燃料 1 2 1 体 / 基

玄海 3 , 4 号機
(4 ループ)
燃料 1 9 3 体 / 基

川内 1 , 2 号機
(3 ループ)
燃料 1 5 7 体 / 基

理由 3 『燃料取扱上の作業スペースが広い』

玄海 3 号機は , 4 号機より **2 倍程度広い作業スペース**があるため ,
M O X 燃料専用の大型の輸送容器や検査装置の配置スペースが
十分に確保でき , 燃料受入検査等を実施しやすく , 作業の安全性
が十分確保できる。

玄海 3 号機にて実施

